

静岡市議会議員

まつや清

静岡市議会 企業消防委員会

清掃対策審議会委員

議会運営委員会オブザーバー 各派代表者会議オブザーバー

静岡市議会 超党派太鼓サークル「葵陣太鼓」事務局長



COP26 イギリス・グラスゴー 気温上昇 1.5℃以内努力を国際合意！

静岡市は 2030年 46%削減目標を上回る温暖化対策実行計画を示すべき！

緑の党として気候危機に対する政策提言を続け様々な分野で実現できました！

2022年が始まりました。今年も引き続きご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

もはや、豪雨、猛暑、豪雪など異常気象は身近なものとなり、気候危機は人類最大のテーマとなっています。昨年10月、政府はようやく2050年にカーボンゼロ、2030年には46%削減(2013年比)という国際水準に見合う削減計画を掲げました。電源構成は、再生可能エネルギー36~38%と低く、依然として原子力20~22%、石炭19%を前提にしています。昨年11月のCOP26では、日本政府の石炭火力発電容認姿勢に対し、世界のNGOから2年連続で不名誉な「化石賞」を授与されてしまいました。

まつや清も呼びかけ人となり、全国・県内の自治体議員で、2020年8月に「気候危機・自治体議員の会」(超党派議員約500人)を設立し、政策研究会や昨年のCOP26開催時に「庁舎前全国フットアクション」の開催を呼びかけるなど、県内15の自治体議員と連携してきました。

静岡市議会では、緑の党として気候危機に対する政策提言を続け、様々な分野で成果を上げてきました。2020年6月の市議総括質問でまつやは、建築分野でのゼロエネルギーハウス(Zeh)補助金制度を提案し、2021年4月から1件30万円・合計1500万円規模の補助制度を実現させました。2021年9月議会では、「健康長寿・カーボンフリーと建築物省エネ法の改正について」質問しました。具体的には、静岡市の入浴時のヒートショック死が交通事故の年間死者18人に対して47人であることを踏まえ、「静岡は暖かく住みやすい」という固定観念のもと、建物の断熱対策に遅れがあることを指摘しました。保健福祉局長からは、「保健福祉センター主催の“冬健康教育”において、省エネにもつながる住宅の断熱化の有効性について説明するなど、ヒートショック対策について、他局(建築・環境)とも連携していきます」との答弁を得ました。11月議会では、「グラスゴー合意と静岡市地球温暖化対策実行計画について」質問をしました。2022年度に温暖化対策第3次実行計画策定に向けて設立された「脱炭素官民連携会議」の現状や政府が力を入れている「農地(耕作放棄地を含む)を活用したソーラー発電」についてです。経済局長からは、「次期農業振興計画の策定の中で、営農型太陽光発電の普及を含めた持続可能なエネルギーの調達など、脱炭素社会の実現に向けて、本市農業がどうあるべきかを検討していく」との答弁を得ました。

こうした中、静岡市は、ビルや工場で使われる全ての電力を再生可能エネルギーで賄う電力の地産地消「脱炭素エリア」を計画することです。(静岡新聞 元旦報道)

気候危機対策において、ヨーロッパで活躍する緑の党、国内では長野県モデルに学びながら、未来の子どもたちのために、2030年には、『再生可能エネルギー50%の静岡市』を目指す決意です。(写真:千代公夫さん(中央・元静岡市議)が進める「ブルーベリー栽培+太陽光発電」農場を見学)



城北から

唐瀬・唐瀬通り・岳美町内会の皆さんの遊水池会館が完成しました！ 麻機遊水池第4工区そばに建つ 3町の公民館

昨年の11月6日、3町の町内会の役員の皆さん、施工事業者の方々が列席し、完成式典が開催されました。建設委員会の皆様のご苦労は大変なものでした。いろいろな課題が次から次に発生し、その都度、地域コミュニティのために公民館の果たす役割の大切さを原点に、対策が講じられてきました。木造建築の2階建てで、様々な工夫がこらされている素晴らしい建築物です。まつやが関わったのは、市と県の関係部局間の調整など微々たるものですが、このような形で公民館が完成したことに心からお祝い申し上げます。公民館は、住民の交流の場であり、防災時の拠点であり、地域文化の育まれる場でもあります。公民館が未来につながる空間になることを期待しています。





11月議会 総括質疑 コロナ禍 子育て世代・低所得者支援

**子育て世代、低所得者層への10万円給付 追加補正予算
9月30日以降離婚・別居状況の子育て世帯への支給を求める**

一刻も早い10万円一括現金支給と市長の専決処分に任せず議会審査に付すべく、異例の11月議会中の会期延長を含む3回に渡る追加補正予算が計上されました。静岡市議会は、国会審議との同時進行で可決、子育て世帯(9万4000世帯、94億円)・低所得者世帯(8万1000世帯、84億円)への10万円現金支給を可決しました。

一方で、9月30日以降に離婚・別居状態にある子育て世帯は、支給対象になっていません。緑の党として12月27日、市長に「支援から漏れる世帯への救済策の検討」を申し入れました。



**ひとり親家庭支援「母子寡婦福祉会」の
随意契約の実態をたずぬ！
支援策具体化のため、相談事業情報の公開を求めたい！**

静岡市母子寡婦福祉会のパワハラと推測される運営をきっかけに、経験豊富な職員が2021年4月から6月にかけて相次いで退職され、様々な委託事業の滞りが心配されて来ました。そこで、「ひとり親家庭等総合サポート事業」について、2021年4月からの相談窓口の体制、職員配置の実態、個人情報保護の研修等の実施状況、4月以降の月例報告の評価等を質問しました。子ども未来局からの答弁は以下の点でした。

相談窓口の体制は、委託契約で、就業相談や助言指導を行う就労支援専門員1名と就業支援計画を策定し支援を行うプログラム策定員1名の計2名を配置となっている。しかし、4月以降の配置状況は、委託契約に定める仕様を正しく履行しておらず、関係部局に確認し対応していきたい。なお、8月以降は、適正に配置していた。

個人情報保護の研修等については、「個人情報の保護の取扱いに関する仕様書」を渡しているのみで、十分とは言えない。本年4月以降、特に7月までの相談件数は毎月5件程度で、就労件数は実績がない。原因はわからないが、前年に比べ減少している。

11月議会 反対討論 桜が丘病院移転問題

**桜が丘病院の移転に伴うJR清水駅東口公園と
JCOH大内新田の土地交換に反対！**

**「移転説明会の開催・大内新田か桜が丘公園への移転」の
請願に賛成！**

11月議会では、桜が丘病院の土地交換第177号議案(大内新田2万9589㎡4億2904万円、東口公園4900㎡6億2475万)、その差額1億9000万円を含んだ第169号補正予算部分に反対し、また創生静岡から補正予算の修正動議に賛成の立場で討論を行いました。

JCOH所有の大内新田との土地交換についての反対理由は3つあります。

一つ目は、東口公園は津波浸水想定区域であることなど病院建設にふさわしくないとの市民グループ請願に賛成の立場からです。静岡新聞は、12月12日の社説において東日本大震災、阪神淡路大震災の教訓を踏まえれば、何故、津波浸水区域への移転であるのか、「改めて説明を聞きたい」と主張しました。

二つ目は、市民グループの皆さんが静岡市、桜が丘病院、JCOHの3者への情報公開請求で得た公文書により、2015年5月12日JCOHからの「桜が丘病院の移転用地の確保のお願い」から移転問題が始まったのではなく、進行していた大内新田整備計画をJCOHと静岡市の両方で棚上げし清水庁舎跡地への移転を推進しようとしていた「事前約束」の存在が明らかになったことです。

静岡市は、大内新田から現清水庁舎、清水庁舎駐車場と建設場所が転々とした、2020年12月の東口公園決定基本協定までの5年と6か月にわたる全経過を含めて、市民に説明する必要があります。

三つ目は、大内新田には、JCOHが本来、病院予定地として購入すべき4000㎡(時価2億6000万)が静岡市土地開発公社に塩漬けされている点、高部地域の生涯学習交流館の建替えや公園、貯水池などの使用目的が確定していない段階でJCOHの所有する土地の全面積を購入することは行財政改革方針に反する点です。

城北公園 Park-PFI 事業 都市局長に要望書提出

12月13日、「みんなで考えよう！城北公園の会」で呼びかけた4189人分の署名とまつや清を応援する会のもとに届いた署名は、田辺市長に提出いたしました。ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。



これに先立ち、11月11日、市議会会派・緑の党としては、都市局長に市民グループとの協議がないまま、Park-PFI事業者との実施協定を結ばないことなどなど、5項目の要望書を提出しました。

9月議会では、「パブリックコメントを実施しなかった城北公園 Park-PFI 事業について」総括質問しました。地域住民と静岡市相互の歩み寄りに期待をしています。

パブリックコメントに市民の声を

●**市民文化会館再整備基本構想・基本計画中間案**
パブコメの応募は終了し、435名から2,054項目が提出されています。1月中には、結果が公表される予定です。「公共空間を考える会」は、市民文化会館構想の議論を市民サイドから活発化させるため、1月14日、15日にかけて、神戸の「Dance Box」、京都の「Theatre9」、「京都芸術センター」などを視察し、政策提案に向けて活動します。

●**(仮称)多文化共生のまち推進条例案**
3月頃公表予定のパブコメ案に期待します。「多文化共生条例」策定に対して、「アジアを考える静岡フォーラム」は、SNS上でのヘイト投稿対策に関する提案準備の話し合いを重ねています。

●**リニア南アルプストンネル工事の
中止を求める国会請願署名**

署名活動にご協力ください。(第一次集約 5月末)
2022年は、南アルプスの自然、大井川の水問題については、正念場を向かえています。昨年末の有識者会議で、「トンネル工事での湧水は全量戻す」ことは共通認識となりましたが、方法については全く示されていませんでした。

1月に開催される静岡県環境保全連絡会議、リニアトンネル工事差し止め訴訟に注目していきます。(署名活動など詳細はQRコードから)



写真で見る
まつや清
活動の
日々



10月31日～11月3日
●ミヤマーの明日を考える写真展



11月21日 ●第24回外国人無料検診会(静岡済生会病院)開催



12月4日 ●きよしとこの夜 まつや清を応援する会 年末イベント開催



12月5日 ●防災訓練 城北町内会の3つの防災倉庫点検



12月24日 ●福島原発震災情報連絡センター文科省へ公開質問(小中高副読本・汚染水問題)



1月5日●静岡流通センターでの鮮魚初せりを見学



ミャンマー国民に力を貸してください

静岡ユース・フォー・ミャンマー
代表 Khin Yadanar Soe さん
キン・ヤダナソー



日本には、ミャンマー人が35,000人以上、静岡市には600人が住んでいます。ミャンマーは東南アジアに位置し、自然豊かな国です。世界一寄付大国とも言われるように、穏やかな人が多く困っている人を助ける国民性を持っています。長年の軍事政権から2010年民政移管となり、様々な視点から国が発展し、アジアの最後のフロンティアとも呼ばれていました。そんなミャンマーで、2月1日にクーデターがおきました。国民は、市民的不服従運動や全国的デモ集会等様々な平和的な手段により、クーデターに反対する意思を表明してきました。一方で、国軍は自国民に対して銃を向け、徹底した弾圧を実施し、1300人以上の罪のない国民が犠牲となっています。現在は、更に状況が悪化し、国軍と武装勢力の衝突により多くの人達が山の中や森の中で避難民生活を送っています。国軍による拷問や不当逮捕、村の焼き討ち、レイプ、避難キャンプへの発砲等、人道に対する罪が繰り返り起きています。

ミャンマー国民は、国際社会の注目と助けが必要となっていて、権力の横暴や不正には国境がありません。痛みや悲しみにも国境はありません。私たちは、クーデター以降、静岡に在住する若者たちで「静岡ユース・フォー・ミャンマー」のグループを立ちあげ、街頭での訴えや募金活動を続けてきました。松谷議員とは、その活動の中で知り合い、今回、松谷議員を窓口として鈴木和彦議長への要請活動の機会を得ました。12月17日には、「ミャンマーにおける民主的な政治体制の早期回復を求める」議長声明が公表されました。私たちに元気と勇気を与えていただきました。皆様のお力を是非、ミャンマー国民に貸してください。よろしく願いいたします。

静岡市議会 鈴木和彦議長声明 全会派合意

12月8日、ミャンマーの若者によるミャンマーの民主主義回復を求める「静岡ユース・フォー・ミャンマー」の代表キン・ヤダナソーさんはじめ3人と鈴木和彦議長との面談に同席しました。

ミャンマーの青年たちの声が議長はじめ市議会議員一人一人の気持ちを動かしました。



ミャンマーフェスタ

2月1日の軍事クーデターから1周年を前に1月30日(11:00から)、青葉公園で、「静岡ユース・フォー・ミャンマー」や「ミャンマーの明日を考える会」(仮称)の共催による「ミャンマーフェスタ」が開催されます。大勢の皆様のご参加をお願いします。

まつや清 短信コーナー

★元旦、島田市大井川10キロマラソン
南アルプストンネル工事で影響のある大井川をしっかりと見ておきたいと参加しました。何とか完走できましたが350名くらいの中でビリから3番目、68分！これからも、トレーニングに励みます。



★コロナオミクロン変異株の急拡大第6波に備えましょう。
沖縄の米軍基地由来の驚くべき感染力、沖縄・山口・広島県にまん延防止措置が発令されました。11-12月議会で第3回目ワクチン接種費16億8500万を議決。1月中旬から受付、早い方で高齢者施設など2月中旬から接種が始まります。静岡県が無料のPCR検査を1月31日までウエルシア、杏林堂で開始しました。静岡市の独自予算による検査場所の拡大と期間延長を求めて行きます。

★「デジタル化推進プラン」パブコメ結果に注目しましょう。
今後10年間の「誰でもがデジタル化による豊かさを享受できる地域社会」を目指すと言われてますが、マイナンバーカードの取得を前提とする構想に「共通番号制度を考える会」からは疑問が示されています。継続して勉強会が開催されています。

★市民と一緒に作る議会質問「わいわいミーティング」
随時開催中(興味のある方は、地球ハウスまで)

静岡市議会 2月定例会会議日程

会期 2月4日～3月18日 39日間
2/9 補正等議案委員会審査(厚生・観光文化経済・都市建設) 2/10 補正等議案委員会審査(総務・企業消防・市民環境) 3/1～3/4 総括質問 3/8・3/9 当初議案等委員会審査(総務・企業消防・市民環境) 3/10・3/11 当初議案等委員会審査(厚生・観光文化経済・都市建設) 3/18 本会議

まつや清プロフィール

1951年 新潟県柏崎市生れ 静岡大学工学部中退
1987年 静岡市議会議員(3期)、静岡県議会議員(1期)、
国会議員政策秘書を経て、2009年より静岡市議会議員(4期)

★企業消防委員会 2022年度予算チェック準備中



昨年9月から10月の決算審査では、以下のような課題が審議されました。上下水道局・清水区のポンプ場建設で消防局からの指示の放置、建築指導課の許可前工事の開始など初歩的ミスや水道料金の値上げとコロナ禍の影響、決算表にでない損益勘定留保資金、脱炭素型施設運営。消防局・吉田町火災事故調査委員会報告が警察の捜査中を理由に非公開となっている事情、消防団の報酬口座振り込み・女性団員確保のための環境整備、浜岡原発事故対策など。年末に報道された消防団役員による市の交付金や自治会からの防火協会費使い込み事件については、現在調査中です。

★山本昌輝議員への辞職勧告決議案(2021/9.15)可決
一昨年に起こした交通事故で被害者への謝罪・補償もせず、裁判判決にも従わず、前代未聞の「報酬の差し押さえ」をされた山本議員に対して、創生静岡、共産党、街づくり研究会、緑の党所属の議員14人が連名で辞職勧告決議案を提出し、公明党、志政会の賛成で可決されました。

イベント・インフォメーション

■ 地球ハウス学校 ※毎月第4火曜日

時間: 19:00～21:00 リモート勉強会

- 1月25日「ミャンマーの軍事クーデターと「静岡ユース」
講師:キン・ヤダナソーさん(静岡ユース・フォー・ミャンマー代表)
 - 2月22日「一緒に生きていく難しさ」
講師:横井圭介さん
(ラルツシュかなの家 職員)
- ※要事前申込み
Facebook:「地球ハウス学校」
E-mail: chikyu_house@yahoo.co.jp

